

再び防衛拠点化する

ヒロシマの基地群

新田秀樹

(ピースリンク広島・呉・岩国)

今年3月、防衛省は広島県呉市で昨年操業を停止した日本製鉄瀬戸内製鉄所呉地区の跡地約130haの土地(東京ドーム約27個分)を「多機能な複合的防衛拠点」整備のため一括購入する意向を県と市に提示した。「呉は米軍岩国基地や陸上自衛隊13旅団や佐世保などにも近く、非常に重要な場所にある」と説明している。西日本(あるいは全国)から武器や弾薬などの兵站拠点にするということだ。



旧日鉄跡地を上空から撮影、写真上が自衛隊棧橋、JMU(民間)ドッグ、呉地方総監部

呉市はかつて旧海軍呉鎮守府の置かれた侵略拠点であった。1889年の開庁前はのどかな農漁村であったが、のちに作られた海軍工廠(兵器工場)とともに、軍事都市として発展を遂げた。呉海軍工廠では戦艦「大和」を含め多くの軍艦、潜水艦や弾薬などが製造され、少し離れた零戦などを製造していた広海軍工廠と共に東洋最大ともいわれた。1945年4月からは度重なる空爆を受け、街は焼き尽くされ、中には撃沈され身動きが取れなくなった軍艦が横たわっていた。海軍工廠で働く労働者などで一時は40万人を超えた人口は、敗戦後の海軍解体と共に職を失い、半数以下に落ち込んで街は一変した。

この呉市で戦後復興を支えたのは1950年6月28日施行の旧軍港市転換法(軍転法)でもあった。軍転法は旧海軍鎮守府の置かれた4市のみにも適用される法律で軍の街から平和産業港湾都市へと変わろうという趣旨の法律です。憲法95条の規定に基

づき住民投票が行われ、約82%の有権者が投票し約96%が賛成という、圧倒的な市民が賛同した。

しかし、戦後、海軍解体後に発足した海上保安庁掃海部、軍転法施行の3日前の朝鮮戦争勃発後には保安隊を経て、1954年の海上自衛隊呉地方隊発足と共にその理念は活かされず、現在国内最大級の海上自衛隊基地を抱える街になっている。

さらに軍事拠点化は進んでいる。1991年、湾岸戦争後の機雷除去の名目で掃海艇が呉基地から自衛隊の初の海外派兵が始まった。翌年はPKOカンボジア派兵のための輸送艦派遣、2001年、当時の小泉政権によって、戦地のペルシャ湾へ米軍などへの燃料などの補給のため補給艦が派遣され、2009年から現在までソマリア沖海賊対処という名目で護衛艦が海外で活動を行っている。

海外派兵が増す中で艦船数は大きく変わらないが、艦船の大型化が進んでいる。海上自衛隊呉基地は現在、国内最大の潜水艦基地でもあり12隻が配備され、護衛艦、補給艦、音響測定艦や宮古島や石垣島への弾薬輸送を担った大型輸送艦(揚陸艦)3隻など40隻余り配備されている。空母に改修された護衛艦「かが」も呉基地の所属であり、多用途かつ、最大の海上自衛隊基地である。とりわけ「かが」は岩国基地の米海兵隊やこれから新田原基地(宮崎県)に配備予定の短距離離陸と垂直着陸可能なF35Bを搭載可能な空母として運用され、事実上の揚陸艦である大型輸送艦は上陸舟艇LCACをそれぞれ2隻搭載し、日米共同演習などでは米海兵隊の揚陸作戦などの中心的な存在になっている。

もともと呉市では旧軍港市転換法に基づいて旧海軍施設は自治体に無償譲渡あるいは貸与で公園、学校などの公共施設、または民間企業への有償譲渡で生まれ変わっていった。旧海軍工廠の大部分は民間施設へと生まれ変わった。その一つが現在の日鉄跡地でもあり、海軍の弾薬を作っていた工場跡地は製鉄所へと変わり、軍艦を作っていたドッグは民間の造船所へと戦後の呉の発展に貢献した。

しかし、自衛隊発足と共に鎮守府のあった旧海軍の中心部分は自衛隊基地へと変わっていった。呉市行政はいまだに軍施設として残っている米陸軍弾薬庫の返還を求めながら、自衛隊施設は日本の平和に貢献しているとして容認している。それどころか、自衛

隊との共存共栄を進め積極的に歓迎しているのが実情である。

2015年、戦争法(安保関連法)が強行採決され、戦争ができる国づくりが進んでいる。集団的自衛権行使、秘密保護法や土地規制法、そして安保三文書改訂の過程で自衛隊が大きく変わっている。本当に呉市の言う平和に貢献している組織なのか。膨大な防衛費を使い、琉球弧の島々を中心に米軍を中心にした共同演習を繰り返し、沖縄を戦場にした戦闘訓練までしている現状でどうなのか。今年度自衛隊統合指令部が市ヶ谷に創設され、呉には自衛隊海上輸送群が新設される。このことと日鉄跡地問題は無縁ではないと思われる。具体的なことはいまだによくわからないが10隻の輸送艇を配備するというが、横浜にある米軍ノースドックのような役割を担うことになるのだろうか。順次拡大されるのであろうが、土地や桟橋といった問題も起きてくる。

また、広島県内に3か所の弾薬庫をもつ米陸軍第83兵器大隊の司令部は呉市の海上自衛隊桟橋に隣接した場所にあり、陸軍ではアジア最大の75000tの弾薬が保管され、通常呉市の広港から横浜ノースドックへと運ばれている。報道によると、この司令部の移設にすでに合意しているという。呉市市営中央桟橋向かいの自衛隊の土地と交換するというものだ。自衛隊にとっては現在の桟橋も拡大され、願ってもないことだろう。

25年度概算要求では日鉄跡地調査費として5億円を要求している。巨大な日鉄の設備解体、土壌調査などで数年はかかると思われる。防衛装備の生産拠点、弾薬庫を整備するとしているが、南西諸島有事を想定した兵器、弾薬や食料などの集積拠点として整備する計画だろう。

これに連動して、陸自第13旅団の強化など、西日本全体の基地強化にもつながっていく。かつてのアジア侵略拠点の呉を後方支援基地として、再び軍事拠点にさせてはならない。9月21日~22日、西日本を中心に軍拡が進む各地からつどい、「西日本連帯交流会」を開催する。各地で闘う仲間と連帯してまずは交流を深めたい。



左が「かが」、右が「おおすみ」型揚陸艦、奥には弾薬庫のある大麗女島(おおうるめじま)、ここにも新弾薬庫計画がある

海上自衛隊呉地方総監部に配備されている主な艦船(排水量は総トン数、全長)

護衛艦(DDH,ヘリ空母)「かが」(26000t、248m)

護衛艦(DD)「いなづま」「さみだれ」「さざなみ」(6200t前後、151m)「うみぎり」(4950t)

護衛艦(DE)「あぶくま」「とね」(2900t)

→多機能護衛艦(FFM)「もがみ型」(5500t)ステルス機能を持つ最新型に変更予定がある

おやしお型潜水艦 3隻(3500t、82m)、そうりゆう型潜水艦 8隻(4200t、84m)

たいげい型潜水艦 1隻(4300t、84m)・最新 2023年配備

練習潜水艦(おやしお型)2隻・練習艦は呉基地だけの配備(第一練習潜水隊)

潜水艦救難艦「ちはや」(6900t、129m)・23年4月、宮古島沖ヘリ墜落で捜索活動参加

掃海母艦「ぶんご」(6900t、141m)・機雷掃海と敷設の能力を持つ

掃海艇「みやじま」「えたじま」(590~780トン)・「えたじま」も宮古沖捜索参加

輸送艦(大型揚陸艦)「おおすみ」「くにさき」「しもきた」(13000t、178m)

エアクッション艇(LCAC、上陸舟艇)6隻(180t)・「おおすみ」型揚陸艦に搭載される

補給艦「とわだ」(12100t、167m)・対テロ特措法で燃料補給のため2001年から7回の派兵

音響測定艦「はりま」「ひびき」「あき」(3800t)・他国潜水艦探査が任務、実態は不明

練習艦(護衛艦)「はたかぜ」「しまかぜ」(5900t)・能力的には事実上の護衛艦の同様の装備

※油槽船(YOT)2隻(3500t)・呉警備隊所属の初の大型油槽船、南西諸島有事を想定してか